



慶應義塾大学ビジネススクール

日本企業の決算報告 2001

< a >

以下に掲げる財務諸表は、現在を代表する日本企業の 2001 年度の決算報告(楽天は 2000 年 12 月期、セブン・イレブン・ジャパンは 2001 年 2 月期、その他は 2001 年 3 月期)です。ただしいずれも、商法で規定されている決算公告に必要とされる程度の簡潔なものです。この程度の要約財務諸表から、それぞれの企業の体質的な特徴をどのくらい読み取ることができるのでしょうか？

市場で見かけるそれぞれの企業の製品やサービス、新聞紙上などで見聞きする情報などをすべて思い起こしながら、企業の実態について推論をめぐらせてください。

(注) 財務諸表中の大分類・中分類の数字は、それぞれの項目の合計額を表示している。

単位はC社が百万円、その他の社は十億円である。

【設問】

(1) A 社から G 社は、下記に掲げた企業のいずれかに対応します。財務諸表を眺めた上で、どの企業に対応するものか、線で結んでください。

- | | | | |
|-----|---|---|------------------|
| A 社 | ・ | ・ | ソニー(株) |
| B 社 | ・ | ・ | 楽天(株) |
| C 社 | ・ | ・ | (株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ |
| D 社 | ・ | ・ | トヨタ自動車(株) |
| E 社 | ・ | ・ | (株)武富士 |
| F 社 | ・ | ・ | (株)セブン・イレブン・ジャパン |
| G 社 | ・ | ・ | ソフトバンク(株) |

(2) これらの財務諸表から、それぞれの企業の事業構造や体質的特徴、経営戦略などに関して、思いつくものをすべて挙げてください。

このケースは慶應義塾大学ビジネススクール 山根 節がクラス討議の資料として作成した。

(2001 年 11 月)